

# 人生ハンド仏句

第148号

H. 26. 7. 1

(毎月1日発行)

## 御縁に感謝

住職 谷川寛俊

七月に入ると例年の如く、十日〜十六日までの一週間、東京近郊（埼玉・千葉・東京・神奈川）にお住いのお檀家へ、お盆の御回向（ごえこう、棚経）にお邪魔致しておりますが、今年で四十二年目になります。戦前・戦後に魚津から東京方面に出られた方々ですが、現在は二世・三世の時代に入っています。

今回特にご紹介したいのは、渋谷区代々木にお住いの某家は、大変ご熱心なご家庭で、ほんとうに長い御縁を頂いております。御令息様も奥様も（三年前にお寺の本堂で結婚式を挙げられました）親しいの大変親孝行な方々です。数年前までついつい居心地が良いものですから遠慮もせず、ご好

意に甘えて二泊三泊とさせて戴いております。

ところが四、五年前よりお母様がご高齢の為に、お世話も出来なくなつたという事で、ホテルまで用意して頂くことになってからは、さすがに凶太い私も御無理は言えないと思ひ、ご遠慮申し上げておりますが、それでも毎年新宿の大きなホテルを一泊用意して頂いており、ほんとうに私にとつては、足を向けて寝るわけにはいかないくらいに御恩を感じている次第であります。

更にもう一軒ご紹介したい話があります。

これも都内のある家で、お経を終えて玄関先を出たところ、お隣の家の方から「実は私の実家も日蓮宗なのです。遠く九州は福岡なのですが、幼い時から仏壇の前で、無上甚深微妙の法は……そして南無妙法蓮華経のお題目を聞いて育ちましたから、

## 「人生ハンド仏句」

と打ち込んで頂けば、ホームページにつながります。

編集・発行  
玉蓮山 真成寺  
編集部 谷川久仁子  
TEL・FAX 0765-22-2268

大変懐かしく忘れる事が出来ません。このお経を聞くといつも母を思い出します。今、嫁いできた家は、浄土真宗でお姑さん達もとつくに亡くなり、都会に住んでいられるとお寺さんとも疎遠になり、お盆になつてもお経に来て下さいません。毎年この時期になると、お隣さんに来られて窓越しに聞こえてくる有難い日蓮宗のお経を聞くのが待ち遠しい限りです。

夫と相談して今年こそ御無礼は承知の上でお願いしたいのですが、一度是非私どもの仏壇にもお勤めいただけないでしょうか？」

これがきっかけで今では大変熱心なご信者となり、もう数十年の御縁を頂戴しております。

ほんとうにどこにどの様な「縁」があるかわからないものです。

「袖触れ合うも他（多）生の縁」と申しますが、この意味は今日ここであなたとお会いしたという事は、実

は生まれる前の世界、つまり過去世とか前世とか申しますが、その時にお会いした事があったからこそ、その御縁で、今生（こんじょう）現世、此の世で再びお会いする事が出来たというのが他生の縁の語源です。

ほとんどの方はこの意味を知らないで「多少の縁」と思っている方が多いのではないのでしょうか。果たしてあなたはいかがでしたでしょうか？

